

事例 No.202

伏虎クラブ連合会

《組織について》

伏虎クラブ会員は約250人。
70代後半から80代前半の方が多い。
総会や学習会には60人程度、新年会には100人程度の参加がある。
見守り及び清掃と旅行は各20人にも満たず。

《組織の設立経緯》

市老連設立に伴い昭和39年設立。
昭和55～60年をピークに、近年は十数人／年減っている。

活 動 内 容

＜年間行事＞

毎朝見守り、5月に総会研修会。毎月10～11人で役員会。
清掃行事、介護施設慰問、新年研修会、演芸研修会。
城北地区の歴史、健康や防災等の学習を行っている。
80歳以上の方に紅白饅頭を配布。市老連の行事に努めて参加。

＜サークル＞

詩吟部：月2回 水曜日午後 西大工町にて活動。
ゲートゴルフ部：毎週日曜日午前 本町公園にて活動。
カラオケ部：毎週土曜日10時～12時 ト半会館にて活動。



工 夫 ・ 問 題 点

- ① 介護予防は民間や老人クラブでは担いきれない大ごとです。条例で70歳になったら毎朝学校で介護予防をするなどの取り組みはできないでしょうか。介護予防、閉じこもり対策は大きな課題であり、強制する必要があるのではないかと考えています。
- ② リーダーの仕事が多岐にわたり負担が大きく、リーダーのなり手が無い単位クラブがあり、解散の危機に瀕しています。全国的なことと思いますので「アリの一穴」と捉えるべきだと思います。

活 動 予 定

上記②のために班長会議（役員会）に副班長も加えて養成する。